

解放45周年  
ベトナムは  
いま

# 新型コロナウイルスとの 新たなたたかいに挑む

ジャーナリスト 鈴木勝比古

ベトナムは新型コロナ・ウイルスとのたたかいの中で、南部解放（1975年4月30日）45周年を迎えた。ベトナムの国と国民の存亡をかけたたたかいという点では同じだが、世界的に目に見えない新型コロナウイルスが拡散する中で、感染の拡大を阻止するきわめて困難なたたかいに直面している。

ベトナムでのクラスター感染はことし2月初めに北部ビンフック省のソンロイ村で発生した。武漢からの帰国者を中心に11人の感染者が出るなかで、2月13日から3月3日まで完全に村を封鎖することで感染拡大を防いだ。この初期対処の成功は、ベトナムが各国に比べて極めて少ない感染者数（4月7日現在、感染者は245人死者は0）に食い止めることにつながっている。

ベトナムは1945年9月2日の独立以来、同年9月のフランス軍のサイゴンへの再上陸、1964年8月の米軍のトンキン湾事件でつち上げによる北爆、あるいは1979年2月の中国軍の北部国境からの侵略など外敵の不意打ちに機敏で断固とした対処をしてきた。ニクソン米政権による1972年4月の突然のハノイ爆撃の際、私はベトナム語を学ぶためにハノイ総合大学に留学中であったが、この爆撃から数日間以内に教職員、学生ごとと大学全体がハノイから北部農村への疎開を速やかに完了し、農村で勉学を続けたのである。

こうした歴史的な体験が、新型コロナウイルスへの対応に役立っている。しかもこれで気を緩めず、その後のヨーロッパでの感染爆発にともない、これら各国からベトナム人が帰国した際も、空



2000年ホーチミン市での開放25周年式典に参加した女性民兵隊

港でのウイルス検査で感染者を隔離することに成功した。

ベトナムは感染拡大を防止するとともに、ベトナム軍医アカデミーと民間会社「越亜テクノロジー」との協力により、新型コロナウイルス検査セットの開発に成功し、大量生産を始めた。常時、1万セットの生産が可能で、必要時には3万セットまで生産できる。1セットが50万ドン（約2300円）という安さである。ウクライナ、フィンランド、イラン、ポーランドなど10カ国が購入申し込みをしたという。そのほかユニークな感染防止策として、ティックトックで、著名な歌手による手洗いソングの動画が配信され、大人気となり（3月5日付AFP電）、日本でも話題になった。

マスク不足も切実な問題になっている。ベトナムの場合はマスク原料をインドから輸入していたが、5月いっぱい輸出を打ち切ると現地から伝えられた。ベトナム医療省と工商省がただちに合同の対策会議を開催（3月14日）し、必要とされる医療用マスク3000万枚を布地を原料にして国内生産する体制をとった。

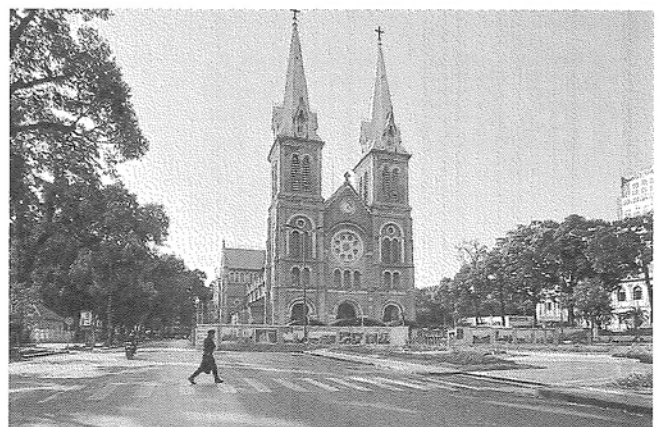
世界保健機関（WHO）が3月11日にパンデミック（世界的大流行）を宣言し、新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るう中、ベトナムもさらに徹底的な対処に踏み切ることを迫られた。

グエン・スアン・フック首相は3月31日に「全社会的な隔離」の指示を発表した。これに国民の動揺が広がると、翌4月1日には中央省庁と各機関、ハノイ、ホーチミン市の2大都市の計28の機関をオンラインで結ぶベトナム政府会議を開催した。フック首相は冒頭、この「全社会的な隔離」は封鎖と違い、国民1人1人の理解のもとに、国民が自分と家族の命を守るために、感染拡大を阻止するための措置であることを率直に説明し、理解を求めた。

4月1日の会議で明らかにされたベトナムの第1・4半期のGDP（国内総生産）は前年比3・82%の伸びであり、2009年からの11年間で最低となったが、この日までに統計が発表された各国の中ではベトナムの伸び率は最高である。フック首相は会議で、「今後、15日間が、わが国で広い範囲での感染爆発を引き起こすか、否か



南部解放を特集した日本の出版物の表紙「ベトナムを支援する日本の平和運動」等から



コロナ対策で人通りがなくなったホーチミン市のカトリック大聖堂前の通り（4月1日）

を決する重大な意義を持つ」と強調し、各界、各層の組織と1人1人の国民の奮起を促すと同時に、社会保障の充実に努めることを約束し、勤労者、とりわけ失業者対

策を重視すると強調した。

解放から45周年の街頭パレードはなく、それどころか市民の姿もまばらであるが、米軍とのたたかいで全長250kmにおよぶクチ

の地下壕に身を隠してたたかいぬいて勝利したように、ベトナム国民が「自分の身を守りつつ」、新たな挑戦に勝利することを願う。